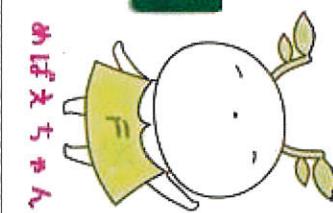


2018年1月 第17号



福島大学

発行
福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター
相双地域支援サテライト
ホームページ
<http://its.fuji.fukushima-u.ac.jp/>

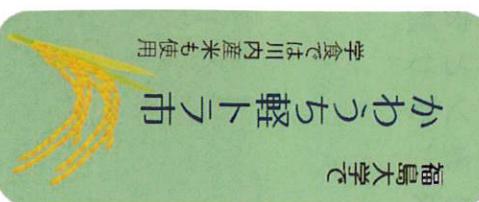
秋空散策あるこう会
inならは 2017

レースを終え、笑顔で集う出場者ら

緒に走りました。この與那嶺惠理さんも一緒に走りました。	起伏に富んだ道路は、サークルにっこり車いすや景色など、自転車車いす愛好家にとって魅力的だといつゝ口一	村内は、アツブダウシく色づく内を駆け抜けました。	せせらぎ莊「をスしへるみどりの

A large outdoor event at Kyushu University featuring a food booth and a sign for the 'Food Festival'. The scene is crowded with people, mostly young students, gathered around a white tent. A green banner in the foreground reads '福島県農林水産物展' (Food Festival). In the background, there are trees and a clear blue sky.

福島大学で11月6日まで、川内村相双農林事務所双葉農業普及所、川内普及所が協力しました。COCの取り組みでは、学生たちが川内村での学び、交流を深めています。同9日には農産物や加工品を販売する「フェア」が行われ、川内村「が村」軽トラ市が開催されました。主催で行わかれました。この取り組みは、米（新米）を実際に課題を実践的に使う。学生や生産の特別生産米（新米）を用いて飯に川内村で提供された。



FURE 相双地域支援サテライト 活動報告会 開催しました

力を養つてせらおつ
験を通して、課題解決能
力とコミュニケーションの体



川内村でのプログラミング教室。11月に第2回用に始まつた。た。今回せ引き続いた。2、3回を行ひました。仙台、K-roboten NNCPRNCNの協力を得ました。第2回では、アイロボットによるマッチでモチーフを作りました。に光ると喜んでいました。連動動きは、プログラミングの基本そのものでした。た。ちが出来上がり、無事にして操作するといつもです。第3回で取り組んだのが、カムプログラムのポートを使ってのプログラミング。うとうと考え、再チャレンジして成功しました。「…」なぜだろ?「うう」と考え、再チャレンジしました。た。に光ると喜んでいました。連動動きは、プログラミングの基本そのものでした。た。個性のや時間など減らすことでロボットを決めました。これでロボットを差し込み、プログラミングを決めてしまいました。これでロボットを操作することができます。まずはひ機会が来ます。皆みんも、機会が来ます。あればぜひ挑戦してみてくださいねー。



たつて講演してました。町民やふたみ未来学園の生徒約60人が参加しました。小泉さんであります。みんなでおじみの快活な口調に、参加しました。皆さんもたむけますよと先生を取りましたが、今後の活動や生活への参考を得ました。

小泉さんによる特別講演会が開催されました。

小泉さんによると、9ヶ月にわたり、農業の生産性向上と環境保全を実現するため、県内農家への技術指導や、地域活性化の取り組みを行なってきました。また、農業の魅力を発信するため、農業祭や市長会議での発表など、積極的な活動を行なっています。

小泉さんは、農業の持続可能な発展と、地域社会との連携を重視する立場で、多くの支持を得ています。